ショートコメント vol.215（2021 年 8 月 12 日）

テーマ：世界のワクチンギャップによる関西景気の回復鈍化
～アジアのワクチン接種の遅れは深刻～

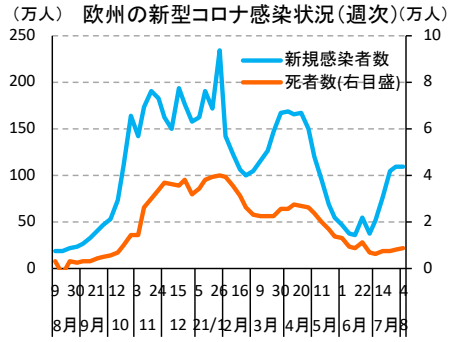
●ワクチンギャップの拡大

世界的なワクチンギャップが広がっている。

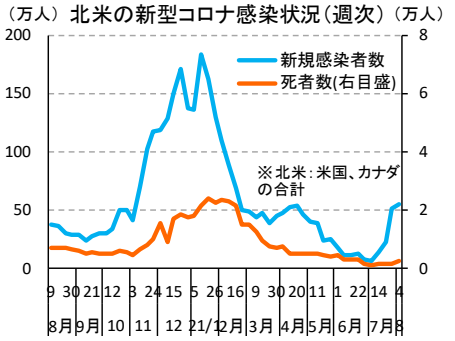
新型コロナウイルスの感染が続く一方、昨年の末頃からは、新たに開発されたワクチンの接種が始まった。ただし、供給量が圧倒的に不足する中、接種が特定の国に偏る結果となっている。

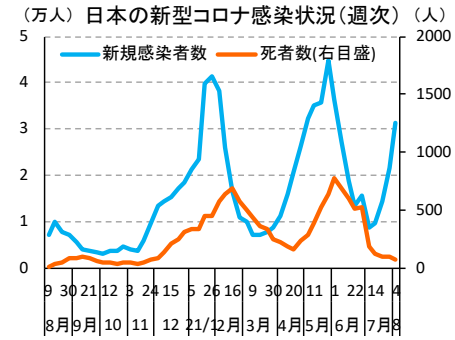
それに伴い、今般のデルタ株の感染拡大に際しては、国や地域による影響の差が著しい。たとえば、欧州や北米では、新たな感染者の増加はみられるものの、死亡者数の大幅な増加は免れている（図表 1、2）。それは過去の推移と比べれば明らかであり、明らかにワクチンの効果が出ているといえよう。

その傾向は日本にも当てはまる（図表 3）。欧州、北米と同様、新たな感染者と死亡者数のトレンドは、従来とは大きく異なるものとなっている。

【図表 1】


（出所）WHO「Coronavirus (COVID-19) Dashbord」、以下同じ

【図表 2】


【図表 3】


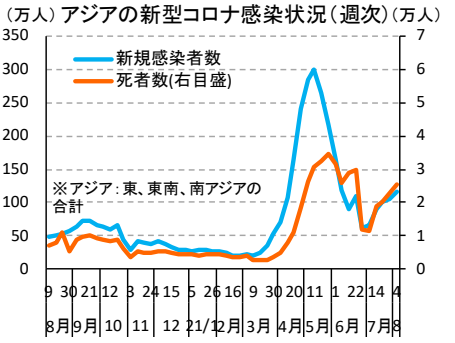
●アジアのワクチン接種の遅れ

そういった中、ワクチンの接種が遅れているアジア全体に目を向けると、全く異なる状況がみられる（図表 4）。

新たな感染が拡大する中、死亡者数も大きく増えている。新規感染者の増え方からすれば、むしろ死亡率は大きく上昇している。

これだけ死亡者数が増えれば、その対応策としても都市の封鎖（ロックダウン）といった強いメニューにならざるを得ない。現に、東南アジアではタイやベトナムといった国が、すでにロックダウンに踏み切っている。これらの動きがさらに広がり、かつ長期化すれば、それに伴う経済的な悪影響は深刻なものとならざるを得ない。

その一方、ワクチン接種の進んだ英国では、今後は感染の拡大をある程度許容し、経済の回復を優先させる方針に大きく舵を切ろうとしている。まさに、ワクチンギャップが経済的な格差にもつながりつつあるといえよう。

【図表 4】


●関西の輸出への影響

こういった中、世界的なワクチンギャップによる関西経済への影響としては、まずは輸出に関するものが注目される。

足元で関西の輸出は大きく増加しており、景気の貴重な下支え役を果たしているが、その増加は主にアジア向けが中心となっている（図表 5）。したがって、ワクチンギャップの影響をそのまま当て

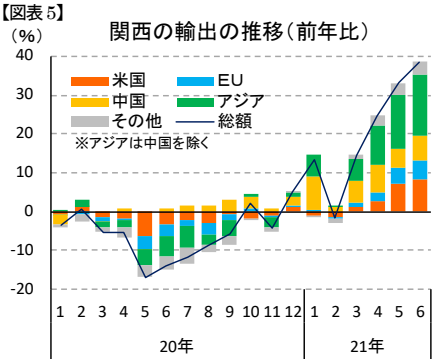
※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

はめれば、輸出の先行きは非常に懸念すべきものとなる。

もちろん、現状のアジア向け輸出の好調は、最終的な需要地が欧米というパターンも多い。その点では、ワクチンギャップの影響を直接的に受けるわけではないものの、仮に東南アジアや中国でロックダウンが頻発することになれば、サプライチェーンの寸断という形で関西にも大きな影響が及ぶ。その場合は、関西景気の回復の鈍化が避けられない。

今後については、まずは東南アジアの感染状況とロックダウンの状況に加え、現地での生産活動への影響が注目されよう。

【図表5】



（出所）財務省「貿易統計」

本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL : 06-6258-8805　mail : hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。